

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700085
法人名	社会福祉法人 三善会
事業所名	グループホーム春の風
所在地	大洲市長浜町甲570番地
自己評価作成日	平成 28年 2月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 3月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との共生、つながり、交流が図れるように地域交流スペース「ひだまり」があり、各種ボランティアの発表の場となっている。
重度になっても最後までお風呂に入れるように機械浴の装置を完備している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧長浜町の住宅街の一角にあり、近くには市役所支所や消防署、警察署、保育園などがあり利便性にも優れている。窓からは長浜高校の校舎やグラウンドが見え、生徒たちの行き交う姿を眺めることができる。また、2階の窓からは海の絶景も一望できる開設2年目の事業所である。事業所内の地域交流室「ひだまり」では地域住民やボランティアグループとの交流を行っている。管理者や職員は笑いの絶えない事業所を目指し、明るくあったかい家庭的な雰囲気を大切にしている。また、「事業所をもっと知ってもらいたい」「地域交流室をもっと活用したい」との思いから、職員のバレーチームが結成され始動し始めたところである。今後、さらなる発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム春の風
(ユニット名)	1階ユニット
記入者(管理者)	
氏名	徳森 利弘
評価完了日	平成 28 年 2 月 10 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念である「ぬくもり、喜び、笑顔」では、利用者に対して日々感じて頂けるような接し方に心がけています。理念を玄関入り口の正面に掲示し、職員全員の意識付けを図っている。また、家族・関係機関の方々など外部の方にも見て頂き共有できている。</p> <p>(外部評価) 理念は玄関先に大きく掲げられ、管理者と職員は「笑顔でぬくもりのある支援」「ともに生活している気持ちと家族と思ってもらえるような支援」など一人ひとりが高い意識を持って実践している。また、新人職員には法人母体にて新人研修を行い、理念が実践できるような体制づくりに取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域との交流を図れるよう「地域交流スペース・ひだまり」を設けている。地元のボランティアの方々による、絵本・紙芝居・音読や歌や民謡・楽器演奏の発表の場、また中学生や高校生との交流の場、家族会、民生委員さんの話し合いの場など多岐にわたり交流に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 高校の吹奏楽部や保育園の園児、フラダンス、カラオケ等数々のボランティア訪問が多くケーブルTVの撮影もあった。また、高校生のインターシップや中学生の職場体験の受入れをしたり、長浜高校の文化祭や運動会、保育園のお遊戯会等の見学に行ったりしている。また「認知症勉強会のお知らせ」等を回覧に入れて欲しいと近隣区長3人に挨拶に行ったところ、快く引き受けてもらうなど日常的な交流が深まっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 「地域交流スペース・ひだまり」の利用時に、利用者さんとの交流を行っており、触れ合いを通して理解を深めて頂いている。また、四季報やGHの「ひだまり新聞」を通して広く、地域社会の方々には生活の様子を知って頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、現状報告やヒヤリハット報告などの発表を行い、推進委員のメンバーより貴重な意見をいただいている。また、意見を反映できるよう、上司との話し合いも実施している。今年度より、毎回スタッフを入れ替えて参加していく中で、職員全員の意識づけに取り組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議は市役所職員、民生委員、近隣住民、他グループホーム職員、利用者や家族など幅広い参加者により開催されている。事業所の職員も交代で参加し、地域の方の貴重な意見や情報を実際に聞くことができる有意義な会議となっている。中でも津波に関しての話題は頻繁に上がっており、避難場所まで職員が実際に歩いた体験を報告した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議において、報告内容に対する質問や助言などを頂いている。改善点など、ご意見を頂いたときはすぐに相談し、対応に心がけている。	
			(外部評価) 市職員が運営推進会議に参加し情報交換したり、事業所の相談やヒヤリハットの報告も速やかに行われ、担当者からは適切なアドバイスを受けている。3カ月に1度のグループホーム連絡会にも参加し常に協力関係を築くように取り組んでいる。また、毎月2名の介護相談員の訪問があるが、地元の相談員のため話しやすく、相談しやすい関係が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしない為にも勉強会を行い、取り組んでいる。帰宅願望や徘徊のある時は気分を転換するために散歩や外出し対応している。利用者さんの安全の為、必要な時は施錠を行っている。	
			(外部評価) 法人本部の研修に職員3名が参加し、研修報告は回覧にて全職員へ周知している。身体拘束のマニュアルを作成し、ミーティング等で身体拘束をしないケアについて話し合いを重ねている。転倒予防のため、家族の同意を得て、居室の出入口にセンサーを設置している。日中は玄関の施錠をしておらず、利用者が自由に入出りできるよう配慮され、見守りケアを徹底している。また声掛けも日頃より尊厳を大切に言葉遣いをするよう常に職員間で気をつけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内の研修において虐待について学び虐待を見逃さないように注意を払い虐待の防止に努めている。 言葉や態度の虐待にも注意を払っていききたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護については学ぶ機会があれば参加して学ぶようにしている。 成年後見制度は現在1名利用されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には担当（管理者）が丁寧な説明を行い同意を得られるようにしている。不安な事や疑問に思うことは何にでも答え、契約前に施設見学して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の面会時や家族会でも、家族同士で話しが出来る様な場を作っている。入所契約時に重要事項説明書に外部への連絡ができることを記載している事を説明している。	
			(外部評価) 利用者や家族等の意見や要望は、運営推進会議や年に3回の家族会などで聞くよう努めている。面会時や電話連絡をする機会を活用して、意見を聞くこともある。「自宅に居る時より明るくなった」「よく話すようになった」「コーヒーが飲めるようになった」など、喜びの声が届いている。今月末頃に今年度3回目の家族会を予定している。今は職員主催で行っているが、今後は家族主催で行えるよう取り組む予定である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回職員会、カンファレンス、職員ミーティングと毎朝・夕の申し送りで情報の共有をはかり提案などがあれば職員や本部と話し合い、個別の意見を改善へとつなげている。 (外部評価) 毎月1回、ミーティングを行い日々のケアについて意見やアイデアを出し合っている。年間行事は大まかに決め、その後は担当職員が進めるようにしている。また業務中に意見が出ることもある。管理者は職員の意見を尊重し、働きやすいシフトを組むなどコミュニケーションを図りながら、職場環境や職員との関係づくりを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業計画に基づき、業務管理シートを作成し各自スタッフが1年間取り組む目標を立てている。目標に対する成果を人事考課表により評価できている。職員の努力や実績により昇格できる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の主催する研修への参加、認知症研修、地域の他グループホーム見学会など募集要項を回覧して参加を促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市のグループホーム連絡会に参加、相互研修や他施設見学会にも参加して、サービスの質の向上に役立てている。今後も継続して地域の同業者と情報交換を行っていききたい。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前に担当のケアマネージャーさんと連絡を取り合い、アセスメントする中で本人の思いを傾聴しながら本人の安心できる関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメントを入念に行い、ご家族が不安に思うことや疑問に思うことは傾聴したうえで思いを受け止めて信頼関係を築くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の希望をもとに優先すべき支援を考え、他事業者とも連携したサービスを提供している。(福祉用具など)	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 週に2回程度、5名の利用者さんに対して、公文学習療法を実践している。その中で教材を通じ、回想法の中から昔の出来事や貴重な話を聞かせて頂いている。洗濯物たたみなど、出来ることは行ってもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の来所時には近況報告、日々の生活の様子体調面などお伝えし、安心していただけるよう努めている。また家族には外出の支援や病院受診など関わりを継続的に保てるよう協力していただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族の協力を得て自宅など馴染みの場所へ行き、過ごしていただけるよう支援している。 また、昔の知り合いなどの訪問により懐かしい思い出の会話をすることもあります。 (外部評価) 利用者の友人や知人の面会があり、職員は快く受け入れをしている。菜の花見学に双海へ出かけたり、家族協力のもと外出や外泊、墓参り等を行っている。また、初の試みで今年誕生日の利用者にお祝いとして職員1名と共に希望に沿った1日外出の計画を立てている。利用者は誕生日が来る日を心待ちにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中、行なっているレクリエーションを通し共に楽しんだり、声を掛け合うことで利用者間の交流を図り孤立を防いでいる。利用者さん同士の会話に行き違いが出る場合には、速やかにスタッフが間に入り、お互いの伝えたい内容を十分に理解してもらえるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方については、グループホームでの生活の状態を適宜、お伝えし本人の状況がよりよくなるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の方の日々の生活の中で、関わりをもち、その時の気持ちや意向や希望を毎日記録に書くようにしている。 (外部評価) 利用者それぞれに担当職員がおり、気軽に話せるような関係作りをしている。中には思いを俳句に込めたり、意思表示しやすい言葉かけにより思いを伝えてもらったり、表情から身体の調子を感じ取ることもある。「外に散歩に行きたい」という思いを聞き、一緒に海を眺めながら散歩へ出かけたことで気持ちが落ち着いた利用者もいる。把握した情報は日誌に記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者個人のアセスメント記録を見て、経歴などを把握し、その利用者の方にあつたプランを作成し支援している。スタッフ全員が情報の共有をしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝、夕の申し送りにて、利用者の状態の変化、把握に努めている。体調が悪い利用者には居室で休んでもいただき必要時には、病院受診したりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ムセ込みや嚥下機能が見られる方には、水分にトロミをつけたり食べやすくしたり、食べやすいように切ったりして工夫し、誤嚥防止に努めている。 食事前には、口腔体操を行っている。</p> <p>(外部評価) 担当者会議を開催し、地元の家族の参加を得て思いや意向を反映した介護計画を作成している。遠方の家族には事前に電話連絡し、思いや意向を聞いている。 「立ち上がりの練習がしたい」「ぬり絵やくもん学習療法を取り入れて欲しい」などの本人や家族からの希望を介護計画に盛り込んでいる。毎月のミーティングでモニタリングを行い、必要に応じて介護計画の見直しをしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 歩行状態の悪い利用者の方は、日中の状態や痛みのある部位などの日々の状態を個別に記録し、情報を共有し場合によっては、車椅子を使用したり歩行器の活用をしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 状態急変時は救急車を要請したり、病院受診の援助を行っている。また、利用者のご家族が都合で付き添いや送迎が出来ない場合は、介護タクシーの利用や施設公用車で通院・受診の介助を行っている。 希望により買い物や散歩、外出等その都度対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 海が近く眺めが良いので気分転換に近くの公園に出向き、釣りをしている人に釣れた魚を見せて頂いたりして地域の人との交流や会話を楽しんでいただいている。 また、学校の運動会や文化祭、地域の催し物などにも積極的に参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診が必要な時は、本人やご家族と話し合い、かかり つけ医や専門医に連絡を取り、直ぐ受診できるように 支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診するこ とができる。協力医への受診は職員が同行し、その他 の受診は家族が対応している。また、2週間に1回協力 医の往診があり、採血、検尿、注射等、定期的に行っ ている。電話は24時間対応で連絡が取れ、夜間の急 変時でも適切な指示が仰げるような体制が整ってい る。救急搬送は家族の同意を得て行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常に利用者の日常の変化や細やかな気付きを密に話し 合い、健康管理や医療支援に繋げている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院する際には、安心して治療できるよう本人やご 家族をサポートしながら、医療機関と連携してスム ーズに退院できるように支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末支援について、早い段階で家族と話し合いを行い 対応方針を主治医や専門の先生とも話し合い、職員全 員で情報を共有し適切な支援ができる様に取り組んで いる。	
			(外部評価) 先月、看取り支援を行った。家族、医師、職員が話し 合いを重ね、本人や家族の思いを受け止めながら穏や かな最期を迎えることができた。現在、看取り指針は 設置していないが、利用者一人ひとりに合った対応方 針は確立している。今後はマニュアルを整備していく 予定で、職員が冷静に対応できるように勉強会を行 い、安心して最期を迎えられるよう取り組んでいく方 針である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。また、急変時の対応にAEDの使い方や心臓マッサージの行い方など消防署の講師の元、実践している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署との連携を図り、定期的な避難訓練を実施し、日勤帯・夜勤帯に備えて、マニュアルに沿って行っている。又、非常時にも地域との連携を図れるよう日頃から地域の方と交流を図り協力していただける基盤づくりに努めている。 (外部評価) 年6回消防署立会いのもと避難訓練を行っている。厳しい状況の夜間想定での訓練を行い、2階から布団で運ぶ方法を実際に行った。またAEDの使用方法を学ぶことで職員の防災意識は高まっている。消防署が近く、消防士が施設の前をランニングするため、顔馴染みの関係となっている。備蓄品は1週間分の水と保存食等の用意ができています。	避難訓練では、近隣住民の参加がなかったが、今月予定の避難訓練には参加の呼びかけを行い、協力体制が築けることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者、ひとりひとり個々にあった言葉かけを行なっている。また、利用者の変化にも速やかに対応できるように日々の観察を重視している。 (外部評価) 利用者の呼び方はさん付けにし、命令口調にならないように注意し、本人が選択できるような言葉かけに努めている。ポータブルトイレにカバーをしたり、居室に消臭剤を置くなど配慮しながら、一人ひとりの気持ちを大切に支援している。また、日頃と違うちょっとしたことも見逃さないように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方が、気兼ねなく話してもらえる様な雰囲気作りを心がけている。表情・動作等の観察をし「気づき」に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースに合った、無理のない支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2ヶ月に1回のペースで施設訪問にて散髪を実施している。入浴後の爪切り・耳掃除・髭剃り等その人らしい身だしなみを行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) アレルギーや嫌いな食べ物がある利用者さんには別のメニューを提供し、おいしく食事を残さず食べて頂けるよう工夫している。 下膳や食器洗い・食器拭きが出来る利用者さんには手伝って頂いている。	
			(外部評価) 献立は本部の栄養士が立て、調理担当の職員が調理している。朝食と土・日は一般の職員が調理している。支援の必要な利用者には、職員が横に座り利用者のペースに合わせて援助がなされ、和やかな雰囲気ですべてできている。エプロンも本人の自尊心を大切に言葉かけを行い使用されている。また、誕生会には赤飯やケーキを手作りしたり、お正月にはおせち料理、夏にはソーメン流しを他事業所と一緒にするなど、季節を感じながら食事に楽しみが持てるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者、ひとりひとりに合った食事形態、食事のバランス等を職員が把握し提供している。また、必要に応じて介護皿を使用し、少しでも食べやすい様に工夫している。食事摂取量や水分摂取量は毎回チェックし記録している。体重の増加、減少等、健康状態を見ながら支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛けや誘導を行い口腔内の清潔保持が出来ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレで排泄していただけるよう、尿意・便意の訴えがない利用者さんには定期的に声かけやトイレ誘導を行なっている。また、ひとりひとりの排泄パターンを理解しその人に合った支援をしている。	
			(外部評価) トイレは各ユニットに3ヶ所設置され、男子トイレも用意されている。排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握しており、日中はできる限りトイレで排泄できるよう努めている。リハビリパンツを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなど、利用者の状態に合わせて自立を促している。また、自分でトイレに行きたいと立位姿勢訓練を行い、自立した事例もあり、一人ひとりの思いを汲み取った支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然便が出る様に体操や腹部のマッサージを行ったり水分補給を行ったりしている。また、3日以上排便が確認できない場合は医師よりその人に合った薬を処方して頂いている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者さんは入浴を楽しみされている方が多い。健康状態をみながらの入浴になり中止する事もあるが全身清拭などにて対応している。入浴時には全身の観察や体重測定を行い体調管理に努めている。また、必要な方に応じて処方された軟膏を塗布している。	
			(外部評価) 入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望に沿って、毎日いつでも入浴ができるように準備されている。利用者の身体状況に応じて滑り止めマットやシャワーチェアの使用、二人体制での支援が行なわれている。1階にはリフト浴が完備され、利用者が気持ちよく安全に入浴できるよう配慮している。また、入浴の苦手な利用者には「今日は温かいよ」などの声かけやタイミングを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、希望があれば居室で休んで頂いている。利用者の方のペースで過ごされている。 夜間帯は、その日によって浅眠の方も居られるがほぼ全員の方が良眠されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者さんの体調の変化に留意し定期的に主治医と連絡を取りながら服薬・調整を行っている。 薬の変更時は職員連絡ノートに目的や副作用を記載し申し送りをして確認する。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者本人に合った手伝いをお願いし、終わった時には感謝の気持ちを伝え意欲につながるように努めている。 利用者の要望に合わせて外出・買い物・散歩の支援を行っている。地域交流スペースでの季節の行事ボランティアの方の訪問など取り入れている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、散歩や外出をし気分転換を図れるように支援している。ご家族の要望により外出や外泊時には荷物・薬の準備など協力している。	
			(外部評価) 日常的に事業所周辺の散歩や、広いテラスでの外気浴を楽しんでいる。また、坂本龍馬脱藩の道に行ったり、桜を見に行ったり、日曜日に可動橋の赤橋を見に行ったりと、季節ごとに外出支援をしている。散歩では釣り人と会話する場面があったり、テラスから高校生の声かけがあるなど、地域の人々と交流する楽しい時間となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出して買い物される時には、自分で財布を持っていたり自分で必要な物・好きなもの等カゴに入れレジに行き自分で代金を支払い、お釣りも受け取るように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族に気兼ねなく電話したりできる雰囲気作りをし、希望に応じて家族に取り次ぎをしている。 ご本人と手紙やはがきをポストに入れに行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共同生活空間は、利用者の方が居心地良く、安心して過ごせるように工夫して配慮している。 行事の時や季節に合った壁画を利用者の方と一緒に作ったり、楽しく安心して生活ができる様に努めている。	
			(外部評価) 目当たりのよいリビングは木の柱や梁が見えぬくもりが感じられる。広い空間にソファやテレビが置かれ、空気清浄器も設置している。テーブルには花が飾られ、壁にはお雛様の飾りつけがされ季節を感じられる工夫をしている。また、家族から送られた飛行機の写真が飾られ目を引いた。利用者はソファでくつろいだり、おしゃべりやぬり絵を楽しんだり、思い思いの場所で穏やかな時間を過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者の方、1人1人が嫌な気持ちにならないように席を変えたりして安心して笑顔で生活できるように心がけている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者本人や家族の方と話し合いをしながら家で使い慣れた物などを持って来てもらい、部屋に置くことによって安心して落ち着いて過ごしていただけるように心がけている。	
			(外部評価) 居室には、ベッド・エアコン・収納が備え付けとなっている。使い慣れたタンス、机、イス、テレビ、家族の写真などの馴染みの物が持ち込まれ、落ち着いた雰囲気利用者が居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の方の体調を見ながら平行棒を使って歩行訓練や立位訓練、歩幅を保つ練習などを行っている。 用事のある時、トイレの済んだ時にはマラカスを鳴らして職員を呼んで頂くようにしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700085
法人名	社会福祉法人 三善会
事業所名	グループホーム春の風
所在地	大洲市長浜町甲570番地
自己評価作成日	平成28年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 3 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員アイデアのあるレクリエーションや機能訓練を考慮した体操を毎日日課に取り入れている。身体機能・認知機能の維持を図る為に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧長浜町の住宅街の一角にあり、近くには市役所支所や消防署、警察署、保育園などがあり利便性にも優れている。窓からは長浜高校の校舎やグラウンドが見え、生徒たちの行き交う姿を眺めることができる。また、2階の窓からは海の絶景も一望できる開設2年目の事業所である。事業所内の地域交流室「ひだまり」では地域住民やボランティアグループとの交流を行っている。管理者や職員は笑いの絶えない事業所を目指し、明るくあったかい家庭的な雰囲気を大切にしている。また、「事業所をもっと知ってもらいたい」「地域交流室をもっと活用したい」との思いから、職員のバレーチームが結成され始動し始めたところである。今後、さらなる発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 春の風

(ユニット名) 2階ユニット

記入者(管理者)

氏名 樋口めぐみ

評価完了日

平成28年2月10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「ここには、ぬくもりがあり喜びがあり笑顔がある」を理念に、職員の意思統一をし支援している。「春の風」の特徴でもある地域交流スペースを通して地域との共生を図り、理念が浸透するように今後も努めていく。</p> <p>(外部評価) 理念は玄関先に大きく掲げられ、管理者と職員は「笑顔でぬくもりのある支援」「ともに生活している気持ちと家族と思ってもらえるような支援」など一人ひとりが高い意識を持って実践している。また、新人職員には法人母体にて新人研修を行い、理念が実践できるような体制づくりに取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 「地域交流スペース」を設け、ボランティアによる演奏や読み聞かせ、高校生のサークル等に利用して頂いている。また、今年度「春の風フェスタ」を実施し、地域のフラダンスグループ、吹奏楽部の演奏等の出し物や出店を開き、地域の方や他施設の方々との交流を深めることができた。</p> <p>(外部評価) 高校の吹奏楽部や保育園の園児、フラダンス、カラオケ等数々のボランティア訪問が多くケーブルTVの撮影もあった。また、高校生のインターシップや中学生の職場体験の受入れをしたり、長浜高校の文化祭や運動会、保育園のお遊戯会等の見学に行ったりしている。また「認知症勉強会のお知らせ」等を回覧に入れて欲しいと近隣区長3人に挨拶に行ったところ、快く引き受けてもらうなど日常的な交流が深まっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高齢者の方々のサロンによる地域交流スペース利用時に施設案内や見学を通し知って頂ける。また、中高生の福祉体験やインターシップの受け入れを行い認知症の方々との触れ合いの中から理解を深めて頂いている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、現状活動報告やヒヤリハットの報告を通じて地元ならではの貴重な体験やご意見を頂き参考にさせてもらっている。地元の祭りやイベントの情報を頂き、できるだけ参加できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は市役所職員、民生委員、近隣住民、他グループホーム職員、利用者や家族など幅広い参加者により開催されている。事業所の職員も交代で参加し、地域の方の貴重な意見や情報を実際に聞くことができる有意義な会議となっている。中でも津波に関しての話題は頻繁に上がっており、避難場所まで職員が実際に歩いた体験を報告した。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 不明な点は電話などで相談し、解決に協力して頂いている。また、運営推進会議の際に利用者さんの状況を報告し助言を頂いている。</p> <p>(外部評価) 市職員が運営推進会議に参加し情報交換したり、事業所の相談やヒヤリハットの報告も速やかに行われ、担当者からは適切なアドバイスを受けている。3カ月に1度のグループホーム連絡会にも参加し常に協力関係を築くように取り組んでいる。また、毎月2名の介護相談員の訪問があるが、地元の相談員のため話しやすく、相談しやすい関係が築けている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束について勉強会を開き、より拘束について理解を深めるよう努めて拘束をしないケアに取り組んでいる。 安全の為、一部施錠をしています。</p> <p>(外部評価) 法人本部の研修に職員3名が参加し、研修報告は回覧にて全職員へ周知している。身体拘束のマニュアルを作成し、ミーティング等で身体拘束をしないケアについて話し合いを重ねている。転倒予防のため、家族の同意を得て、居室の出入口にセンサーを設置している。日中は玄関の施錠をしておらず、利用者が自由に入出りできるよう配慮され、見守りケアを徹底している。また声掛けも日頃より尊厳を大切に言葉遣いをするよう常に職員間で気をつけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内の研修に参加し学んだことを職員間で報告、共有し虐待防止に努めている。今後も定期的にカンファレンスにて見直し意識づけをしていきたい。外部研修にも継続して参加し常に意識をしながら虐待防止をしていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護について学ぶ機会があれば、積極的に参加している。学んできたことを他スタッフにも理解できるように資料などを回覧し学ぶ機会を持つようにしている。 成年後見制度は現在1名（1階ユニット）の利用者が利用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に担当（管理者）が丁寧に説明を行い同意を得ている。契約前に施設見学をして頂いたり、不安や疑問にも応じたりしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時にご意見・ご要望を聞かせて頂き「家族会」など家族同士で話ができる場を作る。入所契約時に重要事項説明書に外部への意見などが発信できるように記載している事を説明する。 (外部評価) 利用者や家族等の意見や要望は、運営推進会議や年に3回の家族会などで聞くよう努めている。面会時や電話連絡をする機会を活用して、意見を聞くこともある。「自宅に居る時より明るくなった」「よく話すようになった」「コーヒーが飲めるようになった」など、喜びの声が届いている。今月末頃に今年度3回目の家族会を予定している。今は職員主催で行っているが、今後は家族主催で行えるよう取り組む予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回、法人全体の職員会・同法人のグループホームとの意見交換。朝夕の申し送りで情報を共有し「連絡ノート」等を活用している。申し送り以外でも、都度意見を聞き、話し合っ改善へとつなげている。	
			(外部評価) 毎月1回、ミーティングを行い日々のケアについて意見やアイデアを出し合っている。年間行事は大まかに決め、その後は担当職員が進めるようにしている。また業務中に意見が出ることもある。管理者は職員の意見を尊重し、働きやすいシフトを組むなどコミュニケーションを図りながら、職場環境や職員との関係づくりを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業計画に基づいて業務管理シートを作成し各スタッフが個人目標を立てている。目標に対し業務が出来たかを人事考課表で評価。就業規則の見直しをして働きやすい職場環境の改善を図っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修への参加申し込み用紙を回覧し、地域密着型サービス協会や市への研修の参加その他の研修への参加を促し業務時間内での参加ができる様に調整している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県や市のグループホーム連絡会に加盟している。他施設見学・相互研修に参加して支援の向上に努めている。運営推進会議で1ヶ月ごとに訪問し合い交流を深めサービス向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 安心して過ごしていただけるように本人の意向などを傾聴し、会話がしやすい雰囲気を作る。また、入居前に担当されていたケアマネージャーとも連絡を取り合い、いち早く信頼関係を築けるように努める。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の不安や困っている事、要望を傾聴する。解決できるように努めながら信頼関係を築いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の要望に対しできる限りの支援を行っている。他のサービスが必要であれば家族と相談しながら行っていきたい。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の生活歴をもとに生活の場で本人が出来る事や日課としてされていた事など出来るだけ行なってもらい時にスタッフと協力し合いながら行なっている。心身とも安定しその人らしい生活が送れるように支援を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 支援している中で家族に協力してもらえることは連絡して協力をお願いし、家族と共に支えられるように支援している。今後は家族様にも、本人と家族が地域でよりよく暮らしていただけるために認知症を少しでも理解して頂くよう努めていきたい。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の情報や本人の生活歴、本人の声をもとに本人の馴染みの暮らしを知り支援に活かしていきたい。馴染みのある場所などは気分転換も含め定期的にドライブなどを行ない出掛けるようにしている。 (外部評価) 利用者の友人や知人の面会があり、職員は快く受け入れをしている。菜の花見学に双海へ出かけたり、家族協力のもと外出や外泊、墓参り等を行っている。また、初の試みで今年誕生日の利用者にお祝いとして職員1名と共に希望に沿った1日外出の計画を立てている。利用者は誕生日が来る日を心待ちにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションを日々の生活の場で職員が間に入っ ての会話や軽作業（協力作業）の場をもち利用者同士 の関係を図り協力し生活して頂けるよう支援している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これ までの関係性を大切にしながら、必要に応 じて本人・家族の経過をフォローし、相談 や支援に努めている	(自己評価) 入院している利用者の方には、職員がお見舞いに行き 家族のストレスや疲れが軽減できるようフォローし相 談や支援に努めている。他スタッフにも状態などミー ティングで報告している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で一緒に関わりを持ち、思いや変化を 見逃さず毎日記録や報告をしている。 本人の思いがわかりにくい利用者の人は職員同士で話 し合い意見を出し合って意向の把握に努めている。 (外部評価) 利用者それぞれに担当職員がおり、気軽に話せるよう な関係作りをしている。中には思いを俳句に込めたり、 意思表示しやすい言葉かけにより思いを伝えても らったり、表情から身体の調子を感じ取ることもあ る。「外に散歩に行きたい」という思いを聞き、一緒 に海を眺めながら散歩へ出かけたことで気持ちが落ち 着いた利用者もいる。把握した情報は日誌に記録し、 職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努めている	(自己評価) 家族や本人にお話しをお伺いした情報の個別記録物に 職員全員が目を通し、利用者の経緯を把握・理解し共 有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送りで利用者の状態を把握しており、自分 ができることはゆっくりと本人に無理がいかないよう に行なってもらう。身体機能が落ちないような支援を 行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 嚥下機能低下が見られる方には、ミキサー食やキザミ食にしたり工夫し、食事前に口腔体操などを行ない誤嚥防止に努めている。身体機能がみられる方には歩行訓練やイージウォークを使ったり、足の運動を行っている。</p> <p>(外部評価) 担当者会議を開催し、地元の家族の参加を得て思いや意向を反映した介護計画を作成している。遠方の家族には事前に電話連絡し、思いや意向を聞いている。「立ち上がりの練習がしたい」「ぬり絵やくもん学習療法を取り入れて欲しい」などの本人や家族からの希望を介護計画に盛り込んでいる。毎月のミーティングでモニタリングを行い、必要に応じて介護計画の見直しをしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子や気づいたことを個別に記録し職員間で情報の共有を図っている。月1回カンファレンスを行い介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 状態の変化があれば、かかりつけ医の早めの受診を行なっている。買い物や散歩の希望にも柔軟に対応している。墓参りにも家族が対応できない時は、介護タクシーや職員で対応する様にしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地元の食材を使ったり地域との関わり、水族館見学、文化祭、地域のイベントなどに参加し、交流を行いながら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医への受診後、受診結果を家族に連絡を 行っている。必要な場合は紹介状を書いてもらい専門 医への受診を家族にお願いしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診するこ とができる。協力医への受診は職員が同行し、その他 の受診は家族が対応している。また、2週間に1回協力 医の往診があり、採血、検尿、注射等、定期的に行っ ている。電話は24時間対応で連絡が取れ、夜間の急 変時でも適切な指示が仰げるような体制が整ってい る。救急搬送は家族の同意を得て行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 現在、看護師は勤務していない。2週間に1度の往診 前に情報FAXを行っている。少しの変化でも主治医 に相談している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院する際には医療機関と連携を図り安心して治療 ができる様にサポートをしている。定期的に状態を確認 しスムーズに退院できるよう支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階で家族と主治医との話し合いをし、連携を図 りながら支援している。定期的にご家族の意向を確認 しながら事業所の対応や方針の共有を図っている。	
			(外部評価) 先月、看取り支援を行った。家族、医師、職員が話し 合いを重ね、本人や家族の思いを受け止めながら穏や かな最期を迎えることができた。現在、看取り指針は 設置していないが、利用者一人ひとりに合った対応方 針は確立している。今後はマニュアルを整備していく 予定で、職員が冷静に対応できるように勉強会を行 い、安心して最期が迎えられよう取り組んでいく方 針である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急や応急手当の研修を定期的に受けたり急変時の行動を職員で共有するようにしている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に地域の消防署の協力のもと、日勤・夜勤帯の災害に備え避難訓練を行っている。火災発生時にはマニュアルに沿って地域消防署との協力体制を築けている。原子力災害の際、一時避難する他施設との連携を図っている。 (外部評価) 年6回消防署立会いのもと避難訓練を行っている。厳しい状況の夜間想定での訓練を行い、2階から布団で運ぶ方法を実際に行った。またAEDの使用方法を学ぶことで職員の防災意識は高まっている。消防署が近く、消防士が施設の前をランニングするため、顔馴染みの関係となっている。備蓄品は1週間分の水と保存食等の用意ができています。	避難訓練では、近隣住民の参加がなかったが、今月予定の避難訓練には参加の呼びかけを行い、協力体制が築けることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の性格特徴を理解したうえでの声かけを行っている。利用者との信頼関係にも関わるので十分に配慮している。 (外部評価) 利用者の呼び方はさん付けにし、命令口調にならないように注意し、本人が選択できるような言葉かけに努めている。ポータブルトイレにカバーをしたり、居室に消臭剤を置くなど配慮しながら、一人ひとりの気持ちを大切に支援している。また、日頃と違うちょっとしたことも見逃さないように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者から本音を話しやすいような雰囲気作りを行っている。本人の希望や思いを考えながら対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の内部事情などを表に出すことなく、利用者のペースに合わせた生活の支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望や必要なものは家族に連絡し持って来てもらうようにしている。定期的に施設での散髪を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 体質や好みで食べられない物がある場合は別メニューで提供し対応している。	
			(外部評価) 献立は本部の栄養士が立て、調理担当の職員が調理している。朝食と土・日は一般の職員が調理している。支援の必要な利用者には、職員が横に座り利用者のペースに合わせて援助がなされ、和やかな雰囲気ですべてできている。エプロンも本人の自尊心を大切に言葉かけを行い使用されている。また、誕生会には赤飯やケーキを手作りしたり、お正月にはおせち料理、夏にはソーメン流しを他事業所と一緒にするなど、季節を感じながら食事に楽しみが持てるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) しっかり食事がとれる様に1人1人にあった食事形態で対応している。塩分の調整、砂糖をカロリーカットにするなどして対応している。食事・水分量は毎食チェックを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケア義歯洗浄を行う。自分のできる方には見守りしながら行ってもらっている。週に2回ポリデント洗浄を行う。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 拒否があり、声掛けしてもなかなかトイレに行かれない方には、口腔ケアの後や水分補給の前後などにタイミングよく声かけを行いスムーズにトイレ誘導ができるよう支援している。	
			(外部評価) トイレは各ユニットに3ヶ所設置され、男子トイレも用意されている。排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握しており、日中はできる限りトイレで排泄できるよう努めている。リハビリパンツを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなど、利用者の状態に合わせて自立を促している。また、自分でトイレに行きたいと立位姿勢訓練を行い、自立した事例もあり、一人ひとりの思いを汲み取った支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便反射の起こりやすい朝食後にトイレ誘導を行っている。排便チェックを行ない主治医と相談しながら排便コントロールも実施している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日を週2日設け利用者のペースに合わせて提供している。入浴前の体調確認を徹底し体重測定も行っている。声掛けしても拒否のある方は無理強いせず翌日入浴して頂けるように努めている。洗身時に皮膚状態の確認を行い処方された軟膏、保湿剤を塗布している。	
			(外部評価) 入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望に沿って、毎日いつでも入浴できるように準備されている。利用者の身体状況に応じて滑り止めマットやシャワーチェアの使用、二人体制での支援が行なわれている。1階にはリフト浴が完備され、利用者が気持ちよく安全に入浴できるよう配慮している。また、入浴の苦手な利用者には「今日は温かいよ」などの声かけやタイミングを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中でも希望時には静養して頂いているが、昼夜逆転に気をつけている。転倒の危険性がある方には鈴やセンサーを設置し音が鳴ったらすぐに訪室出来るように配慮しトイレ等の対応を行っている。歩行が自立している方も見守りを行い、安全に安心して休息出来る様に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) かかりつけの薬剤師に薬の効能の説明をしてもらっている。主治医や薬剤師と連携を取りながら服薬調整している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の意欲につながるように無理のない程度に洗濯物たたみや新聞折りなどの手伝いをして頂いている。地域の方との交流やボランティアなどの季節の行事や外出の計画を立て楽しんで頂き気分転換に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ドライブや散歩などに行く際は本人の意志やその日の天候に合わせた服装にし、健康状態を把握し行なっている。	
			(外部評価) 日常的に事業所周辺の散歩や、広いテラスでの外気浴を楽しんでいる。また、坂本龍馬脱藩の道に行ったり、桜を見に行ったり、日曜日に可動橋の赤橋を見に行ったりと、季節ごとに外出支援をしている。散歩では釣り人と会話する場面があったり、テラスから高校生の声かけがあるなど、地域の人々と交流する楽しい時間となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金はトラブルが起きないように金庫で管理し利用者の買い物は各担当者が本人と相談しながら支援していく。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の状態によって家族への電話の取次ぎを行っている。時間など家族の都合に応じて行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 年中行事や季節にあった壁画を利用者の方と一緒に作り楽しく・明るく安心して生活ができる様にと考えています。共同の空間は居心地よく生活できるよう空気の入替えや温度調整などもしながら配慮しています。</p> <p>(外部評価) 目当たりのよいリビングは木の柱や梁が見えぬくもりが感じられる。広い空間にソファやテレビが置かれ、空気清浄器も設置している。テーブルには花が飾られ、壁にはお雛様の飾りつけがされ季節を感じられる工夫をしている。また、家族から送られた飛行機の写真が飾られ目を引いた。利用者はソファでくつろいだり、おしゃべりやぬり絵を楽しんだり、思い思いの場所で穏やかな時間を過ごされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 1人1人が楽しく和やかな落ち着いた気持ちで暮らせるようにテーブル席やソファ席に配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者本人や家族とも話し合いながら家で使い慣れた物を中心に持ってきていただき居心地の良い空間で過ごしてもらっている。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッド・エアコン・収納が備え付けとなっている。使い慣れたタンス、机、イス、テレビ、家族の写真などの馴染みの物が持ち込まれ、落ち着いた雰囲気利用者が居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 本人のレベルを落とさないように配慮し、手すりを持って歩行して頂いたり、自分でできることはして頂いたりして安全に残存機能を活かした介助を行っている。</p>	